香川県内のボッチャ競技普及に向けた取り組みについて

～香川県ボッチャ協会設立を通して～

かがわ総合リハビリテーション福祉センター　地域交流科
体育指導員　瀬尾　久美子、藤尾　博子

キーワード：ボッチャ競技　協会設立　支援者の育成　競技普及支援　キーパーソン

要　旨

福祉センターは、障害者の社会参加を促進することを目的として、スポーツ教室・大会の開催、支援者の育成、クラブ育成などの支援を行っている。中でも重度の四肢麻痺者が実施できるスポーツの１つであるボッチャの普及を平成21年度より教室から開始し、競技者や支援者の育成を図り、平成27年度２月には競技団体の設立支援を行った。体育指導員が普及・支援活動をしてきた結果、教室や大会参加者も増加し、県内におけるボッチャの知名度や競技普及に繋がった。競技の普及や競技団体の支援には、支援者の育成が最重要であった。支援者の中で主となるキーパーソンを見出し、そして、キーパーソンを中心とした自主的な活動に誘導することで、より一層競技の普及に繋がったと考えられる。

1.　はじめに

福祉センターでは、障害者の社会参加を促進することを目的として、スポーツ教室・大会の開催、支援者の育成、クラブ育成等の支援を行っている。（図１）

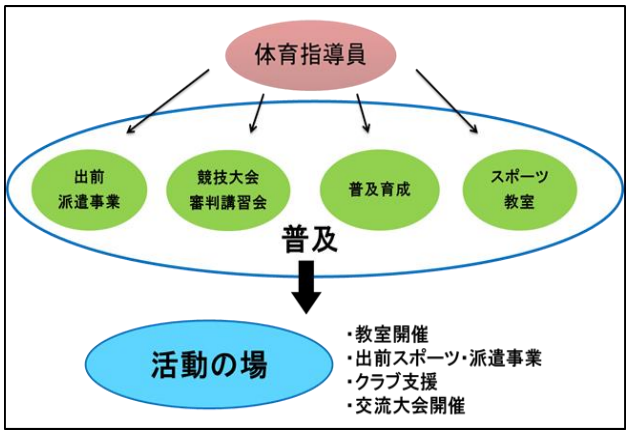

図１　体育指導員のボッチャ普及活動

中でも、重度の四肢麻痺者が実施できるスポーツの一つであるボッチャは、パラリンピックの正式種目でもあるボッチャを普及させるために行ってきた取り組みとして、平成 21 年度より出前・派遣事業や教室の開催、翌 22 年度には競技大会や普及育成事業を実施し、平成 27 年 2 月には競技団体の設立支援を行った。さまざまな普及・支援活動をしてきた結果、平成 28 年度現在、県内におけるボッチャ競技の知名度が上がり、大会・教室に参加する競技者も増加した。障害者スポーツを支援する上で、自主的に活動するクラブの育成と、競技を普及する競技団体育成は重要であり、それに加え支援者の育成は非常に時間を要する。今回、福祉センター体育指導員がボッチャ競技普及に向けた取り組みの成果と、支援者育成に向けた支援方法と成果をまとめ報告する。

2.　ボッチャについて

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度四肢麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目にもなっている。ジャックボールと呼ばれる白い目標球めがけて赤・青のそれぞれ 6 球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近付けるかを競う競技である。

ルールを緩和して行うレクリエーションボッチャから、競技性を重視したものまで、ルールを変更することで障害のある人もない人も、障害によりボー

ルを投げることができなくても、ランプという交配具を使うことで競技ができる、誰もが楽しむことのできる競技である。（図 2）

図 2　競技の様子

3.　体育指導員の取り組み活動と成果

普及をするにあたり、ボッチャ競技を知らない人のために教室の開催や福祉施設などに出向き、ボッチャを体験できる場の提供を行った。しかし、活動を進めていくにあたり、競技者が継続して活動のできる場がないことから、クラブ支援や大会の開催を行った。

（1）体育指導員の取り組み

ボッチャ教室

方法：平成 21 年 4 月～平成 28 年 3 月、全 18 期計 67 回の教室を実施（3 期に分け募集）

対象：身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳所持者および健常者

ボッチャ交流大会

方法：3 人～5 人の団体交流戦および個人戦(年度によって募集内容の変更あり)

対象：団体交流戦…障害のある人および健常者
個人戦…肢体障害者に限る

出前スポーツ教室

方法：福祉施設・学校等へ出向き、ボッチャ競技の紹介・体験

対象：障害のある施設入所者および通所者
福祉施設・学校等の職員

上記のとおり、体育指導員が普及活動や場の提供を行ってきた結果、①当事者の変化②支援者の変化③環境の変化の大きく 3 つの変化が見られた。（図 3）

（2）活動成果

①当事者の変化

・センター主催の教室では、参加者の口コミなどから参加人数が 6 年間で大幅にアップし、本来の対象である重度四肢麻痺者の増加がみられた。
・教室からクラブへ移行した選手が県外大会に出場する等、競技選手の意識向上がみられた。
・県内の大会では、毎年継続して参加するチームが 10 チーム以上となり、高知県や岡山県など近県との交流が図れている。

②支援者の変化

・教室や大会を重ねるにつれて、クラブに関わるボランティアや、審判員等の支援者の育成に繋がり、県外の支援者らと情報交換が盛んに行われている。

③環境の変化

・福祉施設や関係施設へ向けての派遣・啓発事業を継続してきたことでボッチャの知名度上がり、ボールの購入や、用具の貸し出し希望が増加した。
・さまざまな団体から競技の指導希望が出たり、施設職員が競技できる環境を整え、活動の場所が広がった。

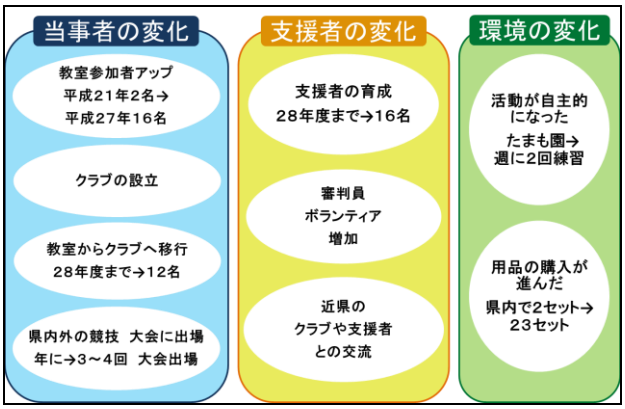

図 3　体育指導員の普及活動の成果

4.　支援者育成に向けた支援方法と成果

教室や大会、派遣事業、クラブ支援などの普及活動を行う中で、上記の成果を上げた要因として、①大会の支援等を行う審判員、②団体や一般の方へ向け、競技を普及させる普及員、③クラブの支援等を行うボランティアといった、すなわち支援者の育成を行うことが支援を行う中で最も重要であることが分かった。その中でも、クラブの人数増加、協会

化に繋がった大きな要因は、普及当初から携わってきたキーパーソンとなるＹ氏の存在であった。（図 4）

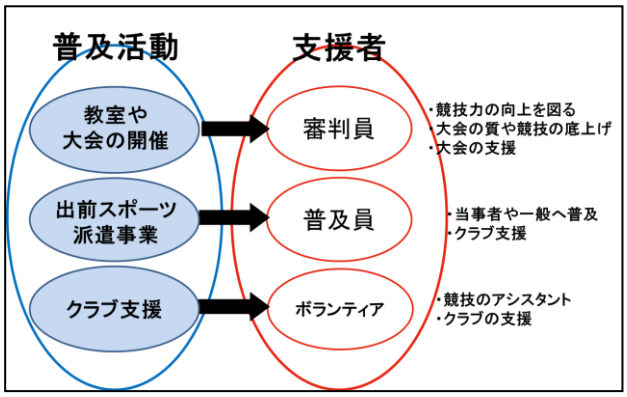

図 4　普及に重要な役割

（1）支援者育成に向けた支援方法

体育指導員は、キーパーソンとなったＹ氏に向けて、約 6 年間支援者育成を行ってきた。段階的に活動に合わせたアプローチを行ったことで、Ｙ氏の活動は明確になり、徐々にステップアップしていくことができた。支援内容・アプローチ方法・アプローチをかけたことによるＹ氏の活動結果は以下のとおりである。

〈アプローチ 1〉

内容：初級障がい者スポーツ指導員養成講習会開催

活動：平成 20 年受講。スポーツ指導員として始動。

〈アプローチ 2〉1 年目

内容：福祉センター　ボッチャ普及事業開始

方法：①高知県で開催されたボッチャ大会に同行の勧誘を行う。

②開始直後の教室で、サポーターがおらず、相談を持ちかける。

結果：教室のボランティアを開始

〈アプローチ 3〉2 年目

内容：第 1 回香川県ボッチャ交流大会・教室開催

クラブ支援継続。

方法：①指導技術の向上と障がいの理解を深めることを目的に、教室の講師依頼を行う。

②センターで活動をしているクラブの情報提供と相談を持ちかける。

結果：①教室の指導者として活動開始。

②クラブの支援も開始。ランプが必要な選手には、手作りのランプを作成する等、競技者の目線に立ち、共に指導力を高めていく。

③Ｙ氏の働きかけにより教室の参加者をクラブへの移行に繋げ、クラブの自主化を図った。

〈アプローチ 4〉3 年目

内容：出前・派遣事業開催

方法：①審判員としてのスキルアップ向上を図るため、日本ボッチャ協会主催審判講習会の情報提供を行う。

②主体的に活動を始めたＹ氏に地域の活動を把握することと関係団体等と顔つなぎをすることを目的に、センターの派遣事業へ同行の勧誘を行う。

結果：審判員の取得をし、体育指導員と事業の同行を開始したことで、県内と県外とのギャップを知り、普及活動は幅広いものになっていく。

〈アプローチ 5〉4 年目

内容：香川県ボッチャ普及員養成講習会開催

一般啓発事業開始

方法：①センターが受けていた大学の障害者スポーツの講師を引き継ぐ。

②更なる支援者の育成を図るため、共に協力してくれる支援者の育成に繋げてほしいと働きかける。

結果：①関係団体や大学と信頼関係を築き、外部講師として務め始める。

②一般啓発事業にも積極的に活動を始め、総合型地域スポーツクラブで教室を開催。

③これまでの活動は、新しい支援者に向けて引き継ぎを始め、支援者の輪を広めていく。

〈アプローチ 6〉5 年目

内容：香川県ボッチャ協会設立

方法：協会設立に向けた支援を行う。

結果：他の支援者とともに、香川県ボッチャ協会の設立立役者となる。協会の会長として、新たな場所へ普及活動を行い、審判員や競技者の育成に取り組んでいる。

(2) 支援成果

今回の成果はY氏にスポットを当てた支援成果ではあるが、キーパーソンであるY氏の活動の中には、実際に競技を行っている競技者や、Y氏以外の支援者が、Y氏の活動に同行したり、普及する場を提供する機会をつくった関係者らが結集し、力を合わせあったことで、成果が現れたと考えられる。

特に、Y氏が出した3つの成果を下記にまとめる。

①県内の普及活動が実を結んだ

・大学の『障害者スポーツ講義』の外部講師

↓

もともとスポーツ指導員でもある教授が、ボッチャに興味を持ち、協会のサポーター会員となる。

大学の生徒に呼びかけたことで、アダプテッドスポーツクラブの発足に繋がった。

・総合型地域スポーツクラブでの教室へ指導者として派遣（年間4回）

↓

総合型クラブの指導員が、協会主催の普及員講習会に参加し普及員となり、地域の住民を対象に地域でボッチャ交流大会が実施されている。

②支援者のキーパーソンとなる

・競技者や審判員へ向け、技術指導や知識を提供
全国の情報を支援者らと共有

↓

競技者の競技力向上および、支援者の指導技術向上、支援者の人材普及に繋がった。

③香川県ボッチャ協会設立

・設立までの準備や、継続した普及活動

↓

支援者や競技者の活動の場が広がり、審判講習会や、選手権大会の開催に繋がった。

5. 考察

今回の活動・支援内容を整理した結果から、体育指導員が行ってきた普及活動に加えてキーパーソンとなる支援者が関わることで、体育指導員だけでは成し得ない成果が生まれることが分かった。

人材育成をするには非常に時間を費やすが、競技や支援者の性格や特性を見極め、段階的にアプローチを行うことで、責任感を持ち主体的な活動に結びついた。

また、直接体育指導員が支援者の育成を行うよりも、支援者間で関係を図り共有し合うことで、それぞれが得意な分野で発揮できる場を見出し、普及活動に繋げていくことができたため、普及スピードを増す結果となった。

6. 今後の課題

香川県では、ボッチャ協会の設立はしたものの、まだまだ支援者・競技者ともに不足しているのが現状である。今後普及をしていくためには、障害のある人や関係団体にとどまらず、一般啓発が必要だと考えられる。さまざまな場面で直面するであろう環境面でのバックアップをしていき、普及に努めたい。福祉センターとしては、たくさんの障害者スポーツを支援する上で、ボッチャの支援活動を通して得たノウハウを生かし、人材育成・クラブ支援・協会の設立等に生かしていきたい。

【出典先】
平成 28 年度かがわ総合リハビリテーションセンター研究年報

【 参考文献 】

1）公認スポーツ指導者養成関係テキスト，公益財団法人日本体育協会，78-118

2）21 世紀のスポーツ指導者ー望ましいスポーツ指導者とはー，公益財団法人日本体育協会，2007